

子どもの行動を規制せずに、子どもの発達を保障する

私たち保育士は、日常「だめ」「いけません」をできるだけ使わずに保育することを心がけています。それは保育所保育指針の「子どもを温かく受容し」、「子どもの人権に十分配慮する」という部分に則しているからです。

ただ、子どもがいけないことをしていても注意しないという事ではありません。「それはダメ！！」「いけません！！」の一言では片付けない、という事です。特に2～3歳（りんご組程度）になると、時間をかけて話せばわかってもらえる時も多くあります。

いけない事を伝えなければならぬ時、まずは子どものどんな気持ちがあつてそういう行動をとってしまったのか、内面を読み取りながら子どもと話をします。

例えば友だちをたたいてしまった時。どうしてたたいてしまったのか本人の気持ちを汲み取ります。「～が嫌だった。」「悔しかった。」など、色々な理由があります。子どもは、気持ちを分かってもらえると安心して落ち着き、心を開きます。その気持ちを汲みながらも、しかし「友だちをたたくのは間違っている」という事をしっかりと伝えます。表情は真剣に。冷静に怒鳴らずに。そして、たたく代わりにどうしたら良かったのかを一緒に考えます。真剣に繰り返して伝えるのは根気のいる事です。でも子どもたちは次第に「これはいけない事なのだ」と心に刻んでゆきます。

4～5歳になると、日常生活の中で簡単なルールを決めてそれを守り、守ることもできます。ルールがあれば、子どもたち同士で注意し合うこともあります。このように時間はかかりますが、あゆみこ保育園の育てたい子どもの姿：「良いことや悪いことが分かり、判断して行動できる子ども」に成長するように、丁寧に援助をしてゆきます。